

1 まちづくりコーディネーターについて

(1) まちづくりコーディネーター（まちコ）の令和2年度の活動について

ア 派遣

まちづくり活動の現場へ赴き、企画会議や講座におけるファシリテーションの他にイベントの取材活動などを行う。

《令和2年度実績》

派遣依頼元	派遣内容	件数
自治会	住民会議のファシリテーション	1
市	ファンドレポート作成	3
	講座等のファシリテーション	2
その他団体	実行委員会のファシリテーション	1
合 計		7

イ 定例会

まちコ同士の情報共有や活動検討の場として、例年、毎月一回開催している。

令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、10月、11月、12月、2月、3月の5回の開催であった。

ウ 交流会

まちコ同士の交流やスキルアップを図るための場として、例年、年2回開催している。

令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、1月の1回のみの開催であった。

(2) 令和3年度の活動について

ア 派遣

市民協働課から1件(つむぎ場13)、その他団体から1件(ワールド・スマイル・ガーデンツ木実行委員会)、それぞれファシリテーションの依頼があった。緊急事態宣言の影響で出足が鈍い印象。

イ 定例会

4月定例会を実施後、5月は緊急事態宣言を受けて延期し、6月に今年度2回目の定例会を実施した。7月以降はこれまでの定例会という形ではなく、3つの「まちコゼミ」と情報共有の場としての交流会を実施する試みを始めた。

ウ まちコゼミ

世話人の3人が講師となり、それぞれの題目でのゼミを7月から月1回ずつ開講することを始めた。

守随ゼミ：ファシリテーションについて

大野ゼミ：企画、プロジェクトマネジメント、オンライン支援について

塚本ゼミ：広報について

エ 交流会

まちコ同士の交流を深めることに重点を置き、それぞれのまちづくり活動の報告や、まちコゼミの受講状況などを話し合う場としたいと企画している。10月に開催予定。

オ まちコ育成講座『つなぎの学び舎』

『つなぎの学び舎・実践編 みんなの対話お助け隊コース』(月1回・全5回)を6月24日(木)から実施。当初は5月から刈谷市民ボランティア活動センターでの開講を予定していたが、緊急事態宣言の影響で、6月からオンラインでの実施へ変更した。

『つなぎの学び舎・基礎編』(月1回・全6回)を10月から開講予定。市民だより9月1日号へ受講生募集記事の掲載を予定している。

2 令和3年度以降のコーディネーターのネットワーク化について

(1) 共存・協働のコーディネーターを刈谷市で育てていくために（平成22年3月）

平成21年度に推進委員会で協議し、次の方策1から3のようにコーディネーターの育み方の考えをまとめている。この内、方策1は、まちコ登録制度によって、方策2は、つなぎの学び舎によって始動したが、方策3は、体系的には進められてこなかった。

【方策1】登録制度：地域に存在が見えやすく、お互いの情報循環がしやすくなること

【方策2】育成研修：学ぶことで力が高まること、担い手が増えること

【方策3】ネットワーク化：コーディネーター同士が繋がりあって解決力を高めること

●協議のポイント

共存・協働のまちづくりを支えるお世話役を「まちづくりコーディネーター（まちコ）」として登録制度を設けているが、地域には「コーディネーター」と呼ばれていなくても、そうした役割を担っている人たちが存在する。

今期の部会では、コーディネーターという役割がより地域で認知され、コーディネーターが力を発揮できる状況をつくることをねらいとして、登録された「まちコ」以外の様々なコーディネーターを顕在化し、ネットワーク化する方策について検討する。

※コーディネーター：一般的には、異なる要素を持ったものを「対等にする」という意味を持ち、調整役を示す。共存・協働のまちづくりにおいては、多様な人や組織の参加・対話・育ちあいを促進するために、「まちづくりへの参加を呼びかける」「活動を応援する」「様々な人や組織の協働を仲介する」等の役割が期待されている。

※まちコ登録制度：登録制度は以下の3種を対象としている。①つなぎの学び舎・実践編の修了者、②地域活動・市民活動を2年以上行ってきた人、③仕事としてコーディネーター業務を2年以上行っている人。ただし、実際は実践編修了者が大半を占めている。（①実践編修了者21人、②③3人＝計24人）

(2) 部会での協議のイメージ（ネットワーク化に向けた準備）

ア コーディネーターを探る

各々の立場から、コーディネーターには、どんな人がいるか。（例；スポーツ推進員、高齢者サロンの運営者など）。

イ ヒアリング実施

（ア）活動の現状・成果・課題

（イ）多様な人や組織の参加・対話・育ちあいに関わるコーディネートで今後重要だと思ふこと。

（ウ）異なるタイプのコーディネーターとの協力、学び合いへのニーズ

ウ ヒアリング結果の共有（第2回コーディネーター部会）

どんなねらいの元に、コーディネーター同士のネットワーク化をつくることが重要かを検討する。

※まちコの間でも、ヒアリング結果を共有し、協議する。

エ 令和4年度以降

コーディネーターがつながりあうための具体的な方法、呼びかけの方法などを検討する。

※まちコの間でも、ネットワーク化のニーズや、方法について協議する。

(3) 成果イメージ

ア これまで意識されていなかったコーディネーターの存在が顕在化する。

イ 顕在化したコーディネーターと接点を持つことを通して、まちコの活動の周知が進む。

ウ まちコの裾野が広がる。（ヒアリングの過程を通して、本制度に関心をもっていたら、②③のタイプのまちコとして登録をしていただく）

エ まちコ交流会等の機会を通して、顕在化したコーディネーターの活動・経験を学ぶ場を設け、まちコの知見を広げる。また、単独のコーディネーターだけでは難しい課題においてまちコが協力して取り組めそうなことを見つける。